鳥取県の推計人口

【平成30年10月1日現在】

平成３０年１２月７日公表

鳥取県地域振興部統計課

目　　次

用語の説明 …… 1

利用上の注意 …… 2

調査結果の概要
Ⅰ　鳥取県の推計人口
1　推計人口と世帯 …… 3

2　年齢３区分別人口 …… 4

Ⅱ　人口動態
1　概況 …… 6

2　自然動態
（1）自然動態の推移 …… 7
（2）月別自然動態 …… 7

3　社会動態
（1）社会動態の推移 …… 8
（2）月別社会動態 …… 8
（3）地域別、男女別社会動態 …… 9
（4）ブロック別の県外転入・転出 …… １０
（5）都道府県別転入・転出超過数 …… １１
（6）年齢５歳階級別、男女別社会動態 …… １１

Ⅲ　市町村別推計人口
1　市町村別の推計人口 …… １３

2　年齢３区分別人口
（1）年少人口 …… １４
（2）生産年齢人口 …… １４
（3）老年人口 …… １４

Ⅳ　市町村人口動態
1　人口増減 …… １５

2　自然動態
（1）市町村別自然動態 …… １６
（2）月別自然動態 …… １７
（3）男女別自然動態 …… １７

3　社会動態
（1）市町村別社会動態 …… １８
（2）県内移動 …… １９
（3）県外転入・県外転出 …… ２０
（4）４市における年齢５歳階級別、男女別県外転入転出 …… ２１

＜参考＞外国人の推計人口 …… ２４

用　語　の　説　明

１　人　口　性　比

女性を100としたときの男性の割合

２　年　少　人　口

0歳～14歳の人口をいう。

３　生産年齢人口

15歳～64歳の人口をいう。

４　老　年　人　口

65歳以上の人口をいう。

５　年少人口指数

年少人口の生産年齢人口に対する比率をいう。

$$\text{年少人口指数} = \frac{\text{年少人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

６　老年人口指数

老年人口の生産年齢人口に対する比率をいう。

$$\text{老年人口指数} = \frac{\text{老年人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

７　従属人口指数

年少人口と老年人口が生産年齢人口に対して占める比率をいう。

$$\text{従属人口指数} = \frac{\text{年少人口}+\text{老年人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

８　老 年 化 指 数

老年人口の年少人口に対する比率をいう。

$$\text{老年化指数} = \frac{\text{老年人口}}{\text{年少人口}} \times 100$$

９　動態

(1)人口動態…自然動態と社会動態を合わせた人口の動きをいう。
(2)自然動態…一定期間における出生及び死亡に伴う人口の動きをいう。
(3)社会動態…一定期間における転入及び転出に伴う人口の動きをいう。

１０　移動

(1)移動者総数…県内移動者数(県内市町村間の転出入)と県外移動者数(県内外の転出入)を合計した数をいう。
(2)実移動者総数…県内市町村間の転入者数と県外移動者数を合計した数をいう。
(3)県内転入者数…県内の市町村から県内の他の市町村へ転入した者の数をいう。
(4)県内転出者数…県内の市町村から県内の他の市町村へ転出した者の数をいう。この調査の県内移動については、転入だけを調査している。このため転出については、従前の住所地(市町村)により、算出した数である。
(5)県外転入者数…県外(外国を含む)の市町村から県内の市町村へ転入した者の数をいう。
(6)県外転出者数…県内の市町村から県外(外国を含む)の市町村へ転出した者の数をいう。
(7)転入・転出超過数…転入者数から転出者数を差し引いた数で、プラスの場合を転入超過、マイナスの場合を転出超過という。

１１　出生率及び死亡率

(1)出生率…人口に対する出生数の千分率(パーミル【‰】)をいう。
(2)死亡率…人口に対する死亡数の千分率(パーミル【‰】)をいう。

１２　移動者の年齢

平成 30 年10月1日現在の満年齢による。

１３　自然増減数

出生数から死亡数を差し引いた数をいう。この場合、プラスは自然増加といい、マイナスは自然減少という。

１４　自然増減率

人口に対する自然増減数の千分率（パーミル【‰】）をいう。

１５　社会増減数

転入者数から転出者数を差し引いた数をいう。この場合、プラスは社会増加といい、マイナスは社会減少という。

１６　社会増減率

人口に対する社会増減数の千分率（パーミル【‰】）をいう。

１７　ブロック別区分

北海道…北海道
東　北…青森県、岩手県、秋田県、山形県、福島県
関　東…茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
中　部…新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
近　畿…滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
中　国…島根県、岡山県、広島県、山口県
四　国…徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九　州…福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

１８　地域別区分

東　部…鳥取市、岩美町、若桜町、智頭町、八頭町
中　部…倉吉市、三朝町、湯梨浜町、琴浦町、北栄町
西　部…米子市、境港市、日吉津村、大山町、南部町、伯耆町、日南町、日野町、江府町

１９　市郡別

市　部…鳥取市、米子市、倉吉市、境港市
郡　部…岩美郡、八頭郡、東伯郡、西伯郡、日野郡

利　用　上　の　注　意

1　鳥取県人口移動調査は、「住民基本台帳法」の規定により届出された者を対象に、出生数及び死亡数、転入者数及び転出者数を、それぞれ住民票の異動日を基準として各月ごとに調査したものである。
2　推計人口とは、平成27年国勢調査結果を基に、各市町村から報告のあった各月の調査結果より推計したものである。
3　人口及び世帯の移動数は、平成29年10月から平成30年9月までの年間数値であり、市町村表記は平成30年9月末現在のもので記載している。

調　査　結　果　の　概　要

Ⅰ　鳥取県の推計人口

１　推計人口と世帯数

鳥取県の推計人口は５６０，５１７人で、前年に比べ４，７１６人減少し、２３年連続の減少となった。

平成 30 年 10 月 1 日現在の鳥取県の推計人口は、前年比 4,716 人減の 560,517 人となった。

昭和 50 年（581,311 人）以降の推移をみると、昭和 63 年の 616,371 人をピークに減少傾向となり、平成 6 年及び 7 年に増加したものの、平成 8 年以降は 23 年連続の減少となった。この間、平成 20 年に 60 万人台、平成 22 年に 59 万人台、平成 25 年に 58 万人台、平成 28 年に 57 万人台を割り、以降は 56 万人台で推移している。

男女別人口をみると、男性 267,885 人、女性 292,632 人で、人口性比は 91.5 となった。

外国人の推計人口は 6,346 人（県の推計人口に占める割合は 1.1%）で前年と比べ 361 人増加し、３年連続の増加となった。男女別に見ると、男性 2,552 人、女性 3,794 人となり、人口性比は 67.3 となった。

世帯数は、219,288 世帯で、この 1 年間で 557 世帯増加した。

昭和 50 年（156,826 世帯）以降増加が続き、平成 12 年では 20 万世帯を超え、平成 30 年では過去最大となり、１世帯当たりの人員は 2.56 で減少が続いている。

（図１、表１、表２、統計表第１表）

図１　人口と世帯数の推移

注 1)各年の人口は 10 月 1 日現在の人口による。

注 2)表示年は国勢調査実施年で国勢調査人口、その他の年は国勢調査を基準として推計した人口である。

表１　推計人口と世帯数（過去5年間の推移）

（単位：人、%、世帯）

年	人口			人口増減				人口性比	世帯数	1世帯当たりの人員
	総数	男	女	総数	男	女	率			
H26年	6,428 576,626	2832 275,168	3596 301,458	－ －	－ －	－ －	－ －	78.8 91.3	215,790	2.67
H27年	5,448 573,441	2125 273,705	3323 299,736	−980 −3,185	−707 −1,463	−273 −1,722	−15.25 −0.55	63.9 91.3	216,894	2.64
H28年	5,722 569,579	2,238 271,898	3,484 297,681	274 −3,862	113 −1,807	161 −2,055	5.03 −0.67	64.2 91.3	217,890	2.61
H29年	5,985 565,233	2,354 270,049	3,631 295,184	263 −4,346	116 −1,849	147 −2,497	4.60 −0.76	64.8 91.5	218,731	2.58
H30年	6,346 560,517	2,552 267,885	3,794 292,632	361 −4,716	198 −2,164	163 −2,552	6.03 −0.83	67.3 91.5	219,288	2.56

注）上段は外国人で内数

注）外国人は国籍不詳も含む

２　年齢３区分別人口

年齢３区分別の構成割合は、年少人口は１２．７％、生産年齢人口は５５．８％で過去最低、老年人口が３１．５％で過去最高となった。

年齢３区分別にみると、年少人口は 70,708 人で前年（平成 29 年 10 月 1 日現在）と比べ 1,058 人減少、生産年齢人口は 310,057 人で 5,485 人減少、老年人口は 175,389 人で 1,827 人増加した。

昭和 50 年以降の推移をみると、年少人口は昭和 60 年の 130,668 人をピークに減少となり、平成 12 年では 10 万人を割り減少が続いている。生産年齢人口は昭和 60 年の 400,717 人まで増加を続けていたが、それ以降減少が続いている。老年人口は増加が続いており、平成７年に 10 万人台、平成 28 年からは 17 万人台となった。

人口構成割合を前年と比べると、年少人口は 12.7％で 0.1 ポイント低下し、生産年齢人口は 55.8％で 0.5 ポイント低下し、ともに過去最低となった。老年人口は 31.5％で 0.6 ポイント上昇し、過去最高となった。

年齢構成指数を前年と比べると、生産年齢人口の扶養負担程度を表す従属人口指数（年少人口と老年人口の合計の生産年齢人口に対する比率）は 79.4 で 1.7 ポイント上昇、年少人口指数（年少人口の生産年齢人口に対する比率）は 22.8 で 0.1 ポイント上昇、老年人口指数（老年人口の生産年齢人口に対する比率）は 56.6 で 1.6 ポイント上昇した。また、老年化指数（老年人口の年少人口に対する比率）は 248.0 で 6.2 ポイント上昇し、老年人口指数、従属人口指数及び老年化指数は過去最高となった。

（図２、図３、図４－１、図４－２、表２、表３、統計表第１表）

図２　年齢3区分別人口の推移―S50年～H30年―

注）S50年からH27年までは国勢調査値、H28年以降はH27年国勢調査を基準として推計したものである。

図３　年齢構成指数の推移―S50年～H30年

注）S50年からH27年までは国勢調査値、H28年以降はH27年国勢調査を基準として推計したものである。

図4－1　人口ピラミッド

県全体　560，517人

図4－2　人口ピラミッド（外国人）

県全体　6，346人

注）外国人は国籍不詳も含む

表2　年齢5歳階級別人口

（単位：人）

年齢	総人口				うち外国人人口			
	総数	男	女	人口性比	総数	男	女	人口性比
総数	560,517	267,885	292,632	91.5	6,346	2,552	3,794	67.3
0～4歳	22,008	11,331	10,677	106.1	92	51	41	124.4
5～9	23,791	12,088	11,703	103.3	109	64	45	142.2
10～14	24,909	12,766	12,143	105.1	95	52	43	120.9
15～19	26,831	13,834	12,997	106.4	263	102	161	63.4
20～24	21,384	11,419	9,965	114.6	906	390	516	75.6
25～29	22,497	11,415	11,082	103.0	766	308	458	67.2
30～34	27,794	13,943	13,851	100.7	594	231	363	63.6
35～39	32,086	16,265	15,821	102.8	534	163	371	43.9
40～44	36,938	18,682	18,256	102.3	421	123	298	41.3
45～49	36,258	18,194	18,064	100.7	380	97	283	34.3
50～54	32,487	15,924	16,563	96.1	251	75	176	42.6
55～59	34,871	16,957	17,914	94.7	182	77	105	73.3
60～64	38,911	19,127	19,784	96.7	150	57	93	61.3
65～69	45,831	22,289	23,542	94.7	182	85	97	87.6
70～74	37,231	17,660	19,571	90.2	148	62	86	72.1
75～79	29,893	12,913	16,980	76.0	83	39	44	88.6
80～84	27,028	10,428	16,600	62.8	65	35	30	116.7
85～89	20,517	6,747	13,770	49.0	22	5	17	29.4
90～94	11,156	2,819	8,337	33.8	17	6	11	54.5
95歳以上	3,733	589	3,144	18.7	0	0	0	－
不詳	4,363	2,495	1,868	133.6	1,086	530	556	95.3

注）外国人は国籍不詳も含む

表3　年齢3区分別人口

（単位：人、%）

年齢	総人口		うち外国人人口	
	年齢3区分別人口	年齢3区分別人口割合	年齢3区分別人口	年齢3区分別人口割合
年少人口（0～14歳）	70,708	12.7	296	5.6
生産年齢人口（15～64歳）	310,057	55.8	4,447	84.5
老年人口（65歳以上）	175,389	31.5	517	9.8

Ⅱ　人口動態

1　概況

１年間の人口動態は、自然動態、社会動態ともに減少し、前年に比べ３７０人減少数が拡大した。

平成 30 年（平成 29 年 10 月～平成 30 年 9 月）の 1 年間の人口動態をみると、自然動態は 3,031 人減、社会動態は 1,685 人減、合計 4,716 人の減少となり、前年と比べると、減少数が 370 人拡大した。**（図5、統計表第3表）**

図５　人口増減の推移　　－Ｓ５０年～Ｈ３０年

注）各年の数値は前年 10 月～当年 9 月の集計による。

２　自然動態

（１）自然動態の推移

自然増減数は、３，０３１人減少し、２１年連続の減少となった。

出生数は昭和 50 年（8,735 人）以降減少傾向となり、昭和 63 年からは 6,000 人台、平成５年からは 5,000 人台、平成 21 年からは 4,000 人台となり、平成 30 年は 4,295 人で前年と比べると 23 人増加した。

死亡数は、平成２年ごろまでは 5,000 人前後を推移していたが、それ以降は増加傾向となっている。平成 15 年からは 6,000 人台、平成 25 年からは 7,000 人台となり、平成 30 年は 7,326 人で前年と比べると 141 人減少した。

自然増減数は 3,031 人の減少で前年と比べ減少数は 164 人縮小したが、21 年連続の減少となった。**（図６、統計表第３表）**

図６　出生数、死亡数の推移　―S50年～H30年

注）各年の数値は前年 10 月～当年 9 月の集計による。

（２）月別自然動態

自然増減数はすべての月で減少となり、１月の減少数が最も多い

月別にみると、出生数は平成 29 年 10 月が 384 人（出生総数に占める割合 8.9%）と最も多く、次いで７月が 380 人（同 8.8%）、３月が 375 人（同 8.7%）となった。

死亡数は１月が 754 人（死亡総数に占める割合 10.3%）と最も多く、次いで 12 月が 677 人（同 9.2%）、２月が 666 人（同 9.1%）となった。

自然増減数はすべての月で減少となり、減少数は１月が 394 人と最も多かった。

（図７、統計表第４表）

図７　月別自然動態　― H29.10～H30.9

	H29年10月	11月	12月	H30年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
出生数	384	358	365	360	316	375	323	367	363	380	369	335
死亡数	-618	-647	-677	-754	-666	-591	-583	-616	-539	-554	-572	-509
自然増減数	-234	-289	-312	-394	-350	-216	-260	-249	-176	-174	-203	-174

３　社会動態

（１）社会動態の推移

社会増減数は、１，６８５人減少し、１８年連続の減少となった。

平成 30 年（平成 29 年１０月～30 年 9 月）の県外転入者は 9,860 人、県外転出者は 11,545 人で社会増減数は 1,685 人減少し、県外転入者は昭和 50 年以降最小となった。県内の市町村間を移動した者(県内移動者)は 6,228 人で実移動者総数は 27,633 人となった。

前年に比べると、県外転入者が 259 人減少、県外転出者が 275 人増加し、社会増減の減少数が 534 人拡大した。また、県内移動者が 101 人減少し、実移動者総数が 85 人減少した。

社会動態の推移をみると、昭和 50 年以降転入・転出とも減少傾向となり、社会増減数は平成 13 年以降 18 年連続で減少した。**（図8、統計表第3表、統計表第7表）**

図8　県外転出入者数の推移　―S50年～H30年

注)各年の数値は前年 10 月～当年 9 月の集計による。

（２）月別社会動態

３月及び４月の２か月間で、年間実移動者総数の３９．２％を占める

月別にみると、県外転入者は４月が 1,775 人（県外転入者総数に占める割合 18.0%）と最も多く、次いで３月が 1,764 人（同 17.9%）、7 月が 863 人（同 8.8%）となった。

県外転出者は３月が 3,557 人（県外転出者総数に占める割合 30.8%）と最も多く、次いで４月が 1,437 人（同 12.4%）、８月が 809 人（同 7.0%）となった。

この結果、４月が 338 人増加し、３月は 1,793 人減少し、この２か月間で年間実移動者総数の３９．２％を占めている。**（図9、統計表第6表）**

図9　月別県外転出入者数　― H29.10月～H30.9月

	H29年10月	11月	12月	H30年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
県外転入	688	520	493	499	510	1,764	1,775	698	591	863	746	713
県外転出	-685	-505	-519	-604	-674	-3,557	-1,437	-730	-650	-767	-809	-608
社会増減数	3	15	-26	-105	-164	-1,793	338	-32	-59	96	-63	105

（３）地域別、男女別社会動態

県外転入者数は島根県が１，２５２人、県外転出者数は大阪府が１，３０２人と最も多い

地域別（都道府県別）にみると、県外転入者は島根県が 1,252 人（男性 670 人、女性 582 人）と最も多く、次いで大阪府が 975 人（男性 522 人、女性 453 人）、岡山県が 904 人（男性 495 人、女性 409 人）となった。

県外転出者は、大阪府が 1,302 人（男性 610 人、女性 692 人）と最も多く、次いで島根県が 1,248 人（男性 668 人、女性 580 人）、東京都が 1,086 人（男性 593 人、女性 493 人）となった。

また、男女別にみると、男性の県外転入者は島根県が 670 人と最も多く、次いで大阪府が 522 人、岡山県が 495 人となり、県外転出者は、島根県が 668 人と最も多く、次いで大阪府が 610 人、東京都が 593 人となった。

女性の県外転入者は島根県が 582 人と最も多く、次いで大阪府が 453 人、岡山県が 409 人となり、県外転出者は、大阪府が 692 人と最も多く、次いで島根県が 580 人、東京都が 493 人となった。

（図１０－１、図１０－２、図１０－３、統計表第１４表）

図10－1 従前の住所地及び転出地の都道府県別転入・転出者数上位15都府県（総数）

図10－2 従前の住所地及び転出地の都道府県別転入・転出者数上位10都府県（男）

図10－3 従前の住所地及び転出地の都道府県別転入・転出者数上位10都府県（女）

（４）ブロック別の県外転入・転出

ブロック別の県外転入・転出者数とも中国ブロックが最多で、次いで近畿ブロック

地域別（ブロック別）にみると、県外転入者は中国ブロックが 3,157 人（男性 1,796 人、女性 1,361 人）で最も多く、次いで近畿ブロックが 2,240 人（男性 1,189 人、女性 1,051 人）、関東ブロック 1,472 人（男性 862 人、女性 610 人）となった。

県外転出者は、中国ブロックが 3,399 人（男性 1,935 人、女性 1,464 人）で最も多く、次いで近畿ブロックが 2,859 人（男性 1,424 人、女性 1,435 人）、関東ブロック 2,089 人（男性 1,156 人、女性 933 人）となった。

（図11－1、図11－2）

図１１－１ 地域別県外転入者数

図１１－２ 地域別県外転出者数

注）全国地域区分別の構成都道府県は、以下のとおり。

北　海　道：北海道
東　　北：青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
関　　東：茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中　　部：新潟、富山、石川、福井、山梨、長野
　　岐阜、静岡、愛知、三重
近　　畿：滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
中　　国：島根、岡山、広島、山口
四　　国：徳島、香川、愛媛、高知
九　　州：福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

（５）都道府県別転入・転出超過数

転入超過数は山口県が３１人、転出超過数は東京都が４１９人と最も多い

転入超過数は、山口県が 31 人（男性 27 人、女性 4 人）と最も多く、次いで和歌山県が 28 人（男性 9 人、女性 19 人）、栃木県が 23 人（男性 14 人、女性 9 人）となった。

転出超過数は、東京都が 419 人（男性 214 人、女性 205 人）と最も多く、次いで大阪府が 327 人（男性 88 人、女性 239 人）、兵庫県が 239 人（男性 122 人、女性 117 人）となった。

（図12、統計表第14表）

図12　都道府県別転入超過数（男女別）

（６）年齢５歳階級別、男女別社会動態

６５～６９歳が最も増加し、２０～２４歳が最も減少

年齢５歳階級別にみると、県外転入者は 20～24 歳が 1,865 人（男性 1,005 人、女性 860 人、県外転入者総数に占める割合 18.9%）と最も多く、次いで 25～29 歳が 1,701 人（男性 891 人、女性 810 人、同 17.3%）となった。

県外転出者は、20～24 歳が 2,899 人（男性 1,513 人、女性 1,386 人、県外転出者総数に占める割合 25.1%）と最も多く、次いで 25～29 歳が 1,806 人（男性 981 人、女性 825 人、同 15.6%）となった。

また、年齢５歳階級別の社会動態を男女別にみると、男性の県外転入者は 20～24 歳が 1,005 人（男性の県外転入者総数に占める割合 18.5%）と最も多く、次いで 25～29 歳が 891 人（同 16.4%）となった。県外転出者は、20～24 歳が 1,513 人（男性の県外転出者総数に占める割合 24.3%）と最も多く、次いで 25～29 歳が 981 人（同 15.8%）となった。

女性の県外転入者は 20～24 歳が 860 人（女性の県外転入者総数に占める割合 19.4%）と最も多く、次いで 25～29 歳が 810 人（同 18.3%）となった。県外転出者は、20～24 歳が 1,386 人（女性の県外転出者総数に占める割合 26.0%）と最も多く、次いで 25～29 歳が 825 人（同 15.5%）となった。

県外転入転出により、65～69 歳が 37 人（男性 30 人、女性 7 人）と最も増加し、20～24 歳が 1,034 人（男性 508 人、女性 526 人）と最も減少、20～34 歳で年間実移動者総数の 50.1%を占めている。

（図13、統計表第15表）

図13　年齢5歳階級別男女別県外転出入者数
3,000
2,000
1,000
0
-1,000
-2,000
-3,000
-4,000
転入
転出
男転出
女転出
女転入
男転入
転出入超過数
0～4歳
5～9
10～14
15～19
20～24
25～29
30～34
35～39
40～44
45～49
50～54
55～59
60～64
65歳以上

Ⅲ　市町村別推計人口

１　市町村別の推計人口

推計人口が最も多いのは鳥取市の 190,090 人、最も少ないのは江府町の 2,790 人

市郡別にみると、市部の推計人口は 418,935 人（男性 200,915 人、女性 218,020 人、県人口に占める割合 74.7%）で、郡部の推計人口は 141,582 人（男性 66,970 人、女性 74,612 人、同 25.3%）となった。

市部で推計人口が最も多いのは、鳥取市の 190,090 人（男性 92,429 人、女性 97,661 人、同 33.9%）で、次いで米子市の 148,262 人（男性 70,286 人、女性 77,976 人、同 26.5%）となった。

郡部で推計人口が最も多いのは、琴浦町の 16,757 人（男性 7,860 人、女性 8,897 人、同 3.0%）で、次いで八頭町の 16,253 人（男性 7,772 人、女性 8,481 人、同 2.9%）となった。

また、最も少ないのは、江府町の 2,790 人（男性 1,292 人、女性 1,498 人、同 0.5%）で、次いで日野町の 2,994 人（男性 1,378 人、女性 1,616 人、同 0.5%）となった。

過去５年間（平成２６年～平成３０年）の市町村別の推計人口の推移をみると、米子市、日吉津村を除く１７市町で減少している。

日吉津村は平成２７年を除き毎年増加し、米子市は平成２７年に増加したが平成２８年から減少となった。

（表４、統計表第８表、第８－１表）

表４　市町村別年齢3区分別人口と世帯数（過去5年間の推移）

（単位：人、世帯）

区分	総人口					年齢3区分別人口			世帯数	1世帯当たりの人員
	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年	年少人口	生産年齢人口	老年人口		
市計	427,536	426,248	424,203	421,732	418,935	54,206	237,731	122,744	169,892	2.47
郡計	149,090	147,193	145,376	143,501	141,582	16,502	72,326	52,645	49,396	2.87
東部地区	233,923	232,610	230,928	229,320	227,195	28,596	129,032	67,647	90,207	2.52
中部地区	105,239	104,320	103,203	102,141	101,045	12,861	53,583	34,366	37,077	2.73
西部地区	237,464	236,511	235,448	233,772	232,277	29,251	127,442	73,376	92,004	2.52
鳥取市	194,363	193,717	192,658	191,601	190,090	24,591	109,806	53,783	77,026	2.47
米子市	149,232	149,313	149,178	148,720	148,262	19,627	84,228	42,299	61,210	2.42
倉吉市	49,370	49,044	48,558	47,980	47,439	5,927	25,381	15,973	18,545	2.56
境港市	34,571	34,174	33,809	33,431	33,144	4,061	18,316	10,689	13,111	2.53
岩美町	11,668	11,485	11,343	11,263	11,108	1,222	5,861	4,024	4,030	2.76
若桜町	3,382	3,269	3,209	3,130	3,055	208	1,422	1,425	1,213	2.52
智頭町	7,269	7,154	7,031	6,905	6,689	671	3,272	2,745	2,481	2.70
八頭町	17,241	16,985	16,687	16,421	16,253	1,904	8,671	5,670	5,457	2.98
三朝町	6,590	6,490	6,393	6,311	6,205	746	3,071	2,388	2,258	2.75
湯梨浜町	16,727	16,550	16,347	16,298	16,238	2,285	8,869	5,081	5,572	2.91
琴浦町	17,634	17,416	17,187	17,010	16,757	2,043	8,622	6,018	5,827	2.88
北栄町	14,918	14,820	14,718	14,542	14,406	1,860	7,640	4,906	4,875	2.96
日吉津村	3,447	3,439	3,459	3,499	3,573	546	2,023	994	1,244	2.87
大山町	16,638	16,470	16,308	16,024	15,846	1,767	7,751	6,323	5,290	3.00
南部町	11,114	10,950	10,874	10,767	10,615	1,272	5,490	3,850	3,510	3.02
伯耆町	11,148	11,118	11,045	10,881	10,737	1,254	5,326	4,153	3,628	2.96
日南町	4,916	4,765	4,637	4,458	4,316	302	1,765	2,249	1,822	2.37
日野町	3,330	3,278	3,188	3,101	2,994	210	1,294	1,490	1,218	2.46
江府町	3,068	3,004	2,950	2,891	2,790	212	1,249	1,329	971	2.87

２　年齢３区分別人口

（１）年少人口

年少人口は前年と比べ２町村で増加、年少人口割合は前年と比べ４町村で上昇

年少人口は鳥取市が 24,591 人と最も多く、次いで米子市が 19,627 人となった。前年と比べると、若桜町及び日吉津村で増加し、湯梨浜町で増減なし、その他の市町で減少した。

年少人口割合は日吉津村が 15.3％と最も高く、次いで湯梨浜町が 14.1％となった。前年と比べると、若桜町、湯梨浜町、日吉津村及び大山町で上昇し、八頭町、南部町及び伯耆町で同水準、鳥取市など１２市町で低下した。

（２）生産年齢人口

生産年齢人口は前年と比べ日吉津村を除くすべての市町村で減少、生産年齢人口割合は前年と比べ全市町村で低下

生産年齢人口は鳥取市が 109,806 人と最も多く、次いで米子市が 84,228 人となった。前年と比べると、日吉津村を除くすべての市町で減少した。

生産年齢人口割合は鳥取市が 58.4％と最も高く、次いで米子市が 57.6％となった。前年と比べると、全市町村で低下した。

（３）老年人口

老年人口は前年と比べ１１市町村で増加、老年人口割合は前年と比べ全市町村で上昇

老年人口は鳥取市が 53,783 人と最も多く、次いで米子市が 42,299 人となった。前年と比べると、鳥取市など１１市町村で増加し、若桜町など８町で減少した。

老年人口割合は日南町が 52.1％と最も高く、次いで日野町が 49.8％となった。前年と比べると、全市町村で上昇した。

（図14、統計表第10表、10－1表、10－2表、10－3表）

図14 市町村別年齢3区分別人口割合

Ⅳ　市町村人口動態

１　人口増減

日吉津村を除くすべての市町で人口が減少

平成 30 年（平成 29 年 10 月～平成 30 年９月）の１年間の市町村別の人口増減をみると、増加したのは日吉津村の 74 人（自然増加 15 人、社会増加 59 人）で、他の１８市町は減少し、最も減少したのは鳥取市の 1,511 人（自然減少 765 人、社会減少 746 人）で、次いで倉吉市が 541 人（自然減少 302 人、社会減少 239 人）、米子市が 458 人（自然減少 362 人、社会減少 96 人）、境港市が 287 人（自然減少 201 人、社会減少 86 人）であった。

また、増減率を見ると、増加したのは日吉津村の 2.11％で、他の１８市町は減少し、最も減少したのは江府町の 3.49％で、次いで日野町が 3.45％、日南町が 3.19％、智頭町が 3.13％であった。（表５、統計表第８表）

表５　市町村別人口増減

（単位：人）

	自然増減			社会増減			人口増減数
	出生数	死亡数	増減数	転入者数	転出者数	増減数	
県計	4,295	7,326	-3,031	16,088	17,773	-1,685	-4,716
鳥取市	1,441	2,206	-765	4,630	5,376	-746	-1,511
米子市	1,334	1,696	-362	5,041	5,137	-96	-458
倉吉市	370	672	-302	1,342	1,581	-239	-541
境港市	237	438	-201	1,283	1,369	-86	-287
岩美町	71	179	-108	313	360	-47	-155
若桜町	12	72	-60	93	108	-15	-75
智頭町	36	152	-116	142	242	-100	-216
八頭町	90	228	-138	375	405	-30	-168
三朝町	31	100	-69	140	177	-37	-106
湯梨浜町	131	249	-118	530	472	58	-60
琴浦町	131	303	-172	386	467	-81	-253
北栄町	106	182	-76	355	415	-60	-136
日吉津村	40	25	15	208	149	59	74
大山町	98	259	-161	426	443	-17	-178
南部町	64	159	-95	312	369	-57	-152
伯耆町	67	166	-99	288	333	-45	-144
日南町	14	101	-87	87	142	-55	-142
日野町	10	84	-74	73	106	-33	-107
江府町	12	55	-43	64	122	-58	-101

２　自然動態

（１）市町村別自然動態

自然増減数は日吉津村を除くすべての市町で減少

自然増減数を市町村別にみると、日吉津村を除くすべての市町で減少した。

増加したのは日吉津村が 15 人（出生数 40 人、死亡数 25 人）、減少したのは鳥取市が 765 人（出生数 1,441 人、死亡数 2,206 人）と最も多く、次いで米子市が 362 人（出生数 1,334 人、死亡数 1,696 人）となった。

自然増減率（対 1,000 人比）は日吉津村が 4.2‰増加、その他の市町は減少で、日野町が 24.7‰と最も高く、次いで日南町が 20.2‰となった。

（図15－1、図15－2、統計表第11表）

図15－1　市町村別自然増減数

※各年の数値は前年 10 月～当年 9 月の集計による

図15－2　市町村別自然増減率

※各年の数値は前年 10 月～当年 9 月の集計による

（２）月別自然動態

出生数は 7 月の鳥取市の 137 人、死亡数は 12 月及び 1 月の鳥取市の 205 人が最も多い。

月別にみると、出生数は 7 月の鳥取市の 137 人（総出生数に占める割合 3,2%）が最も多く、次いで 3 月の鳥取市の 128 人（同 3,0%）、8 月の鳥取市の 127 人（同 3,0%）となった。

死亡数は 12 月及び 1 月の鳥取市の 205 人（総死亡数に占める割合 2.8%）が最も多く、次いで 10 月及び 2 月の鳥取市の 201 人（同 2,7%）、11 月の鳥取市の 191 人（同 2,5%）となった。

（表６）

（３）男女別自然動態

男女の出生数・死亡数とも鳥取市が最も多かった。

市町村別の男女別をみると、男性の出生数は鳥取市が 740 人と最も多く、次いで米子市が 720 人、倉吉市が 180 人、境港市が 140 人であった。死亡数は、鳥取市が 1,102 人と最も多く、次いで米子市が 818 人、倉吉市が 341 人、境港市が 220 人であった。

女性の出生数は鳥取市が 701 人と最も多く、次いで米子市が 614 人、倉吉市が 190 人、境港市が 97 人であった。死亡数は、鳥取市が 1,104 人と最も多く、次いで米子市が 878 人、倉吉市が 331 人、境港市が 218 人であった。

また、最も少なかった出生数は、男性では日南町及び江府町の 5 人、女性では日野町の 3 人、死亡数は、男性では日吉津村の 9 人、女性では日吉津村の 16 人であった。

（表６、統計表第１１表）

表６　月別男女別自然動態　　－H29年10月～H30年9月－

（単位：人）

			計	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
県　計	出生数	男	2,242	195	199	193	173	162	189	176	206	201	188	174	186
		女	2,053	189	159	172	187	154	186	147	161	162	192	195	149
	死亡数	男	3,613	312	312	324	371	314	296	297	293	295	284	273	242
		女	3,713	306	335	353	383	352	295	286	323	244	270	299	267
東部地区	出生数	男	843	68	68	76	64	58	83	64	73	73	74	67	75
		女	807	76	72	65	79	57	61	51	66	56	86	77	61
	死亡数	男	1,426	130	118	125	148	124	121	123	113	127	113	87	97
		女	1,411	129	122	137	129	145	113	105	122	95	98	112	104
中部地区	出生数	男	394	42	38	32	29	28	32	28	34	34	29	29	39
		女	375	33	24	35	38	25	36	33	28	30	31	35	27
	死亡数	男	746	58	64	77	78	58	70	59	55	59	62	59	47
		女	760	54	76	71	87	58	81	58	64	52	51	54	54
西部地区	出生数	男	1,005	85	93	85	80	76	74	84	99	94	85	78	72
		女	871	80	63	72	70	72	89	63	67	76	75	83	61
	死亡数	男	1,441	124	130	122	145	132	105	115	125	109	109	127	98
		女	1,542	123	137	145	167	149	101	123	137	97	121	133	109
鳥取市	出生数	男	740	56	62	68	53	52	77	55	65	62	64	61	65
		女	701	69	60	53	71	50	51	46	57	48	73	66	57
	死亡数	男	1,102	101	94	94	106	91	95	104	91	100	90	65	71
		女	1,104	100	97	111	99	110	89	83	97	76	70	90	82
米子市	出生数	男	720	67	64	60	55	55	52	64	74	65	58	59	47
		女	614	59	45	46	54	50	62	48	46	53	48	61	42
	死亡数	男	818	78	67	69	92	70	62	75	69	53	61	70	52
		女	878	80	74	86	88	83	56	65	89	57	70	78	52

３　社会動態

（１）市町村別社会動態

社会増減数は湯梨浜町及び日吉津村を除く市町で減少

社会増減数を市町村別にみると、湯梨浜町及び日吉津村を除く市町で減少した。

増加したのは日吉津村が 59 人（男性 27 人、女性 32 人）と最も増加し、次いで湯梨浜町村が 58 人（男性 9 人、女性 49 人）となった。減少したのは鳥取市が 746 人（男性 366 人、女性 380 人）と最も減少し、次いで倉吉市が 239 人（男性 86 人、女性 153 人）となった。

社会増減率（対 1,000 人比）は日吉津村が 16.5‰増加、その他の市町は減少で、江府町が 20.8‰と最も高く、次いで智頭町が 14.9‰となった。

（図16－1、図16－2、表7、統計表第12表）

図16－1　市町村別社会増減数

図16－2　市町村別社会増減率

表７　市町村別社会動態

（単位：人）

	県外			県内			社会増減数
	転入者数	転出者数	転入超過数	転入者数	転出者数	転入超過数	
県計	9,860	11,545	−1,685	6,228	6,228	0	−1,685
東部地区	3,781	4,649	−868	1,772	1,842	−70	−938
中部地区	1,260	1,502	−242	1,493	1,610	−117	−359
西部地区	4,819	5,394	−575	2,963	2,776	187	−388
鳥取市	3,322	4,117	−795	1,308	1,259	49	−746
米子市	3,269	3,744	−475	1,772	1,393	379	−96
倉吉市	670	774	−104	672	807	−135	−239
境港市	908	951	−43	375	418	−43	−86
岩美町	150	174	−24	163	186	−23	−47
若桜町	57	58	−1	36	50	−14	−15
智頭町	89	138	−49	53	104	−51	−100
八頭町	163	162	1	212	243	−31	−30
三朝町	69	89	−20	71	88	−17	−37
湯梨浜町	188	228	−40	342	244	98	58
琴浦町	200	238	−38	186	229	−43	−81
北栄町	133	173	−40	222	242	−20	−60
日吉津村	88	54	34	120	95	25	59
大山町	206	199	7	220	244	−24	−17
南部町	146	156	−10	166	213	−47	−57
伯耆町	92	140	−48	196	193	3	−45
日南町	46	59	−13	41	83	−42	−55
日野町	29	48	−19	44	58	−14	−33
江府町	35	43	−8	29	79	−50	−58

注１）転入超過数とは、転入者数から転出者数を差し引いた数。転入超過数がマイナス（－）の場合は、転出超過を示す。

注２）地域別の県内転入者数及び県内転出者数の数値については、地域内市町村間の移動者を含む。

（２）県内移動

県内移動で最も多いのは鳥取市から米子市への 475 人

県内移動をみると、鳥取市から米子市への 475 人（男性 276 人、女性 199 人）が最も多く、次いで米子市から鳥取市への 367 人（男性 224 人、女性 143 人）であった。

県内移動での転入超過は、米子市が 379 人（男性 175 人、女性 204 人）と最も多く、次いで湯梨浜町が 98 人（男性 36 人、女性 62 人）であった。

転出超過は、倉吉市が 135 人（男性 32 人、女性 103 人）と最も多く、次いで智頭町が 51 人（男性 31 人、女性 20 人）であった。

また、県内移動を地域区分別にみると、東部から西部への 621 人（男性 361 人、女性 260 人）が最も多く、次いで西部から東部への 527 人（男性 318 人、女性 209 人）、中部から東部への 389 人（男性 190 人、女性 199 人）であった。

（図17、統計表第13表）

図17　地域別社会動態（H29年10月～H30年9月）

注）地域間移動数は、地域内市町村間の移動者を含まない。

（３）県外転入・県外転出

県外転入者で最も多いのは、島根県から米子市への 694 人、県外転出者で最も多いのは、米子市から島根県への 619 人

県外転入者で最も多いのは、島根県から米子市への 694 人（男性 352 人、女性 342 人）で、次いで大阪府から鳥取市への 370 人（男性 199 人、女性 171 人）であった。

また、県外転出者で最も多いは、米子市から島根県への 619 人（男性 347 人、女性 272 人）、次いで鳥取市から大阪府への 515 人（男性 243 人、女性 272 人）であった。

県外転入・県外転出での転入超過は、日吉津村 34 人（男性 15 人、女性 19 人）が最も多く、次いで大山町 7 人（男性 31 人、女性-24 人）であった。

転出超過は、鳥取市 795 人（男性 360 人、女性 435 人）が最も多く、次いで米子市 475 人（男性 282 人、女性 193 人）であった。

また、県外転入・県外転出を地域区分別にみると、県外転入者については東部では大阪府から 425 人（男性 226 人、女性 199 人）が最も多く、次いで兵庫県から 405 人（男性 214 人、女性 191 人）、中部では岡山県から 153 人（男性 86 人、女性 67 人）が最も多く、次いで大阪府から 150 人（男性 75 人、女性 75 人）、西部では島根県から 886 人（男性 454 人、女性 432 人）が最も多く、次いで大阪府から 400 人（男性 221 人、女性 179 人）であった。

県外転出者については東部では大阪府へ 592 人（男性 279 人、女性 313 人）が最も多く、次いで兵庫県へ 548 人（男性 282 人、女性 266 人）、中部では大阪府へ 195 人（男性 96 人、女性 99 人）が最も多く、次いで東京都へ 162 人（男性 86 人、女性 76 人）、西部では島根県へ 829 人（男性 446 人、女性 383 人）が最も多く、次いで大阪府へ 515 人（男性 235 人、女性 280 人）であった。**（表８）**

表８　都道府県別県外転入・転出者数（上位市町村）

（単位：人）

都道府県	転入					転出				
島根県	総数	米子市	鳥取市	境港市	その他	総数	米子市	鳥取市	境港市	その他
	1,252	694	248	128	182	1,248	619	284	119	226
大阪府	総数	鳥取市	米子市	境港市	その他	総数	鳥取市	米子市	倉吉市	その他
	975	370	241	96	268	1,302	515	352	94	341
岡山県	総数	鳥取市	米子市	倉吉市	その他	総数	鳥取市	米子市	倉吉市	その他
	904	323	314	111	156	1,018	366	331	76	245
兵庫県	総数	鳥取市	米子市	倉吉市	その他	総数	鳥取市	米子市	倉吉市	その他
	752	330	200	53	169	991	473	264	55	199
広島県	総数	米子市	鳥取市	境港市	その他	総数	米子市	鳥取市	倉吉市	その他
	725	287	252	46	140	888	344	333	61	150
東京都	総数	鳥取市	米子市	境港市	その他	総数	鳥取市	米子市	倉吉市	その他
	667	255	193	58	161	1,086	412	314	86	274

（４）４市における年齢５歳階級別、男女別県外転入転出

県外転入者は倉吉市を除き 20～24 歳が最も多く、県外転出者は4市とも 20～24 歳が最も多い。

【鳥取市】

県外転入者は、20～24 歳が 631 人（男性 365 人、女性 266 人、県外転入者総数に占める割合 6.4%）と最も多く、次いで 25～29 歳が 557 人（男性 307 人、女性 250 人、同 5.6%）となった。

県外転出者は、20～24 歳が 1,078 人（男性 580 人、女性 498 人、県外転出者総数に占める割合 9.3%）と最も多く、次いで 25～29 歳が 685 人（男性 375 人、女性 310 人、同 5.9%）となった。

また、転入・転出超過数をみると、転入超過数は、0～4 歳の 9 人（男性 12 人、女性-3 人）及び 50～54 歳の 9 人（男性 18 人、女性-9 人）となった。

転出超過数は、20～24 歳が 447 人（男性 215 人、女性 232 人）と最も多く、次いで 25～29 歳が 128 人（男性 68 人、女性 60 人）となった。**（図１８－１）**

【米子市】

県外転入者は、20～24 歳が 593 人（男性 332 人、女性 261 人、同 6.0%）と最も多く、次いで 25～29 歳が 580 人（男性 313 人、女性 267 人、同 5.9%）となった。

県外転出者は、20～24 歳が 832 人（男性 450 人、女性 382 人、同 7.2%）と最も多く、次いで 25～29 歳が 536 人（男性 311 人、女性 225 人、同 4.6%）となった。

また、転入・転出超過数をみると、転入超過数は、25～29 歳が 44 人（男性 2 人、女性 42 人）と最も多く、次いで 65～69 歳が 27 人（男性 21 人、女性 6 人）となった。

転出超過数は、20～24 歳が 239 人（男性 118 人、女性 121 人）と最も多く、次いで 15～19 歳が 108 人（男性 66 人、女性 42 人）となった。（**図18－2**）

【倉吉市】

県外転入者は、25～29 歳が 112 人（男性 59 人、女性 53 人、同 1.1%）と最も多く、次いで 20～24 歳が 106 人（男性 50 人、女性 56 人、同 1.1%）となった。

県外転出者は、20～24 歳が 187 人（男性 97 人、女性 90 人、同 1.6%）と最も多く、次いで 25～29 歳が 118 人（男性 69 人、女性 49 人、同 1.0%）となった。

また、転入・転出超過数をみると、転入超過数は、0～4 歳が 12 人（男性 12 人）と最も多く、次いで 35～39 歳が 9 人（男性 11 人、女性-2 人）となった。
転出超過数は、20～24 歳が 81 人（男性 47 人、女性 34 人）と最も多く、次いで 15～19 歳が 54 人（男性 35 人、女性 19 人）となった。（**図18－3**）

【境港市】
県外転入者は、20～24 歳が 193 人（男性 104 人、女性 89 人、同 2.0%）と最も多く、次いで 25～29 歳が 145 人（男性 76 人、女性 69 人、同 1.5%）となった。
県外転出者は、20～24 歳が 221 人（男性 130 人、女性 91 人、同 1.9%）と最も多く、次いで 25～29 歳が 154 人（男性 79 人、女性 75 人、同 1.3%）となった。
また、転入・転出超過数をみると、転入超過数では、55～59 歳が 8 人（男性 4 人、女性 4 人）と最も多く、次いで 65～69 歳の 5 人（男性 3 人、女性 2 人）及び 70～74 歳の 5 人（男性 1 人、女性 4 人）となった。
転出超過数は、20～24 歳が 28 人（男性 26 人、女性 2 人）と最も多く、次いで 35～39 歳が 16 人（男性 10 人、女性 6 人）となった。（**図１８－４**）

＜参考＞　外国人の推計人口

１　推計人口と世帯数

・平成 30 年 10 月 1 日現在の推計人口は、6,346 人で前年に比べ 361 人増加
・男女別人口は、男性 2,552 人、女性 3,794 人で、人口性比は 67.3
（P.3 表１）

２　年齢別３区分別人口

・年少人口は 296 人、生産年齢人口は 4,447 人、老年人口は 517 人
・年少人口割合は 5.6％、生産年齢人口割合は 84.5％、老年人口割合は 9.8％
・年齢５歳階級別人口は、男女とも 20～24 歳が最も多く（男性 390 人、女性 516 人）次いで男女とも 25～29 歳が多い（男性 308 人、女性 458 人）
（P.6 表２、表３）

３　市町村別推計人口

・市町村別の推計人口は、鳥取市の 1,809 人（男性 867 人、女性 942 人）が最も多く、次いで米子市の 1,668 人（男性 624 人、女性 1,044 人）であった。（表９）

表９　市町村別外国人推計人口、年齢3区分別人口

（単位：人）

区分	推計人口			年齢3区分別人口		
	総数	男	女	年少人口	生産年齢人口	老年人口
県計	6,346	2,552	3,794	296	4,447	517
鳥取市	1,809	867	942	124	1,509	176
米子市	1,668	624	1,044	116	1,338	214
倉吉市	282	116	166	11	240	31
境港市	458	98	360	8	402	48
岩美町	111	49	62	2	109	0
若桜町	50	2	48	0	50	0
智頭町	62	10	52	0	61	1
八頭町	49	9	40	2	45	2
三朝町	66	22	44	7	58	1
湯梨浜町	74	10	64	2	71	1
琴浦町	178	58	120	3	164	11
北栄町	103	24	79	8	91	4
日吉津村	61	34	27	7	46	8
大山町	82	27	55	3	67	12
南部町	82	34	48	0	80	2
伯耆町	68	14	54	2	61	5
日南町	29	22	7	0	28	1
日野町	14	2	12	1	13	0
江府町	14	0	14	0	14	0
不詳	1,086	530	556	―	―	―

注）年齢3区分人口に不詳は含まない。
注）外国人人口は国籍不詳も含む。

4　自然動態

・出生数は 12 人（男性 6 人、女性 6 人）
・死亡数は 18 人（男性 7 人、女性 11 人）

5　社会動態

（１）県内移動

・県内移動者数は 66 人（男性 19 人、女性 47 人）
・転入が最も多いのは鳥取市の 17 人（男性 3 人、女性 14 人）
・転入超過数は、岩美町の 8 人（男性 1 人、女性 7 人）が最も多く、転出超過は、倉吉市の 13 人（女性 13 人）が最も多い

（２）県外転入・県外転出

・県外転入者数は 1,406 人（男性 611 人、女性 795 人）で、県外転出者数は 1,050 人（男性 413 人、女性 637 人）
・県外転入者数で最も多いのは、鳥取市の 426 人（男性 230 人、女性 196 人）で、次いで米子市の 270 人（男性 124 人、女性 146 人）
・県外転出者数で最も多いのは、鳥取市の 387 人（男性 179 人、女性 208 人）で、次いで境港市の 152 人（男性 44 人、女性 108 人）
・転入超過数で最も多いのは、米子市の 137 人（男性 58 人、女性 79 人）で、次いで鳥取市の 39 人（男性 51 人、女性-12 人）

（表10）

表１０　市町村別社会動態（外国人）

（単位：人）

	県外							県内							社会増減数
	転入者数			転出者数			転入超過数	転入者数			転出者数			転入超過数	
	総数	男	女	総数	男	女		総数	男	女	総数	男	女		
県計	1,406	611	795	1,050	413	637	356	66	19	47	66	19	47	0	356
東部地区	536	269	267	473	193	280	63	29	4	25	18	5	13	11	74
中部地区	228	76	152	191	75	116	37	21	5	16	28	3	25	−7	30
西部地区	642	266	376	386	145	241	256	16	10	6	20	11	9	−4	252
鳥取市	426	230	196	387	179	208	39	17	3	14	14	3	11	3	42
米子市	270	124	146	133	66	67	137	9	5	4	4	1	3	5	142
倉吉市	58	30	28	44	24	20	14	4	1	3	17	1	16	−13	1
境港市	179	50	129	152	44	108	27	4	3	1	7	4	3	−3	24
岩美町	53	22	31	54	8	46	−1	8	1	7	0	0	0	8	7
若桜町	7	1	6	9	1	8	−2	3	0	3	1	1	0	2	0
智頭町	31	11	20	14	4	10	17	0	0	0	1	0	1	−1	16
八頭町	19	5	14	9	1	8	10	1	0	1	2	1	1	−1	9
三朝町	31	9	22	27	10	17	4	4	0	4	2	1	1	2	6
湯梨浜町	35	8	27	29	7	22	6	8	1	7	5	1	4	3	9
琴浦町	81	20	61	61	24	37	20	5	3	2	4	0	4	1	21
北栄町	23	9	14	30	10	20	−7	0	0	0	0	0	0	0	−7
日吉津村	35	22	13	0	0	0	35	0	0	0	0	0	0	0	35
大山町	63	26	37	34	8	26	29	1	1	0	8	5	3	−7	22
南部町	60	35	25	35	21	14	25	1	1	0	0	0	0	1	26
伯耆町	17	3	14	17	1	16	0	1	0	1	1	1	0	0	0
日南町	5	5	0	2	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	3
日野町	5	1	4	3	0	3	2	0	0	0	0	0	0	0	2
江府町	8	0	8	10	3	7	−2	0	0	0	0	0	0	0	−2

注）転入超過数とは、転入者数から転出者数を差し引いた数。転入超過数がマイナス（－）の場合は、転出超過を示す。

注）地域別の県内転入者数及び県内転出者数の数値については、地域内市町村間の移動者を含む。